

聴覚障害を理解するための動画資料 ～指導のための資料～

1 映像資料

「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」


本映像はストリーミング版とダウンロード版がありますので、使用環境に応じてご使用ください。


2 指導資料（映像教材の活用の仕方）



映像資料「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」では生まれつき聴覚に障害があり耳が聞こえない大学生の外園（ほかぞの）さんの一日をまとめたものです。一人暮らしをして、どのように家族と連絡を取っているのか、学校ではどのように勉強しているのか、外園さんにとっての手話とはどういうものなのかなどについて、簡単なクイズや解説を通して学ぶことができます。



映像教材の流れは次のようになっています。

「耳が聞こえない大学生の日常～手話とともに～」の流れ

写真	音声	配慮事項 補足説明
	<p>実際の映像のテロップにはふりがながついていません。</p> <p>途中のクイズの箇所は口で囲っています。</p>	<p>クイズを挟まずに、必要箇所では動画を停止させて、教師自身が問いかけ、解説をする方法もあります。その場合は、<u>クイズなしバージョン</u>をお使い下さい。</p>
	<p>身の周りにはあふれている様々な「音」。</p> <p>それは私たちの生活の中で、情報・芸術・そしてコミュニケーションなどのツールとして使われています</p> <p>大学に通う、外園君。</p> <p>彼は生まれつき聴覚に障がいがあり耳が聞こえません。そのため彼のように耳がほとんど聞こえない人は視覚をつかって情報を得ています。</p> <p>では、耳が聞こえない人たちの日常は聞こえる人たちとどのように違うのでしょうか？外園君の一</p>	

	<p>目を追ってみましょう。</p> <p>タイトル 「聞こえない大学生の日常 ～手話とともに～」</p> <p>朝7時。外園くんはバイブレーション機能のついた目覚まし時計を使って起きます。</p> <p>起きたらまず顔を洗って、はみがきをして、着替えをすませ一通り身支度を整えたら、補聴器を装着します。</p> <p>寝るときにはなぜ、補聴器を外しているのでしょうか？</p> <p>補聴器は音を大きくする器械です。でもすべての音や声が聞こえるようにはなりません。</p> <p>(来客・荷物が届く) 宅配便業者「こんにちは。荷物です。」</p> <p>セリフ： 外園母「元気？ちゃんと食べてる？」 外園「元気だよ。もうすぐテスト。昨日宅配便が届いたよ。ありがとう。あ、8月11日辺りに帰るけどいい？」 外園母「いいよ、待ってるね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枕の下にマッサージ器を入れたり、扇風機を使ったりして目覚ましにしている人もいます。 ・ 補聴器は高価な精密器械である。壊れやすいものである。また、水に弱く水泳の授業等では外さなくてはならない。補聴器をかけている友達は水泳の授業の時どうやって先生の話の話を聞いているのだろうか。 ・ 補聴器をつけても音が歪んだり、騒音の方が増幅されたりするので、すべての音が聞こえるわけはありません。 ・ 呼び鈴は聞こえないからひかりが教えてくれる。「フラッシュベル」という機械がある。 ・ 手話が使え人同士であれば、スマートフォンで自由にやりとりができる。昔はどうしていたのだろうか？ ・ きこえない子どもが生ま
---	---	---

 	<p>耳が聞こえない人は、メールなど文字で連絡を取り合います。テレビ電話を使って手話で会話することもあります。</p> <p>携帯電話がない時代、耳が聞こえない人たちはどのように遠く離れた人と連絡を取り合っていたのでしょうか？</p> <p>手話は聴覚障がいのある人にとって大切な言葉です。</p> <p>耳が聞こえない人のあいさつの方法は、相手の見える範囲で手を振るか、またはかたを軽く叩きます。</p> <p>外園君の通う大学では耳が聞こえない人が授業を受けやすいように様々な工夫がなされています。例えば、机はお互いの顔や手話が見えやすいようになっています。</p> <p>授業開始を知らせるチャイム音も光で知らせてくれます。</p> <p>光で知らせてくれるチャイムがない場合、授業開始を知らせるためには、どのような方法があるのでしょうか？</p> <p>この日授業では小テストが行われました。</p> <p>なぜ、電気をつけたり消したりしているのですよ</p>	<p>れた初めて手話を学ぶ親もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きこえる人は公衆電話で外出先でも連絡ができたが、きこえない人はFAXが普及する前は緊急連絡がとれず不便であった。現在の携帯電話（メール）の普及はきこえない人の連絡方法に大きな恩恵をもたらした ・先ほどのフラッシュベルと同じ。 ・別の時間に、子どもたちがテスト等で下を見て集中している時に、電気を点
--	--	--

	<p>うか？</p> <p>休み時間は友だちとの楽しいおしゃべりです。</p> <p>手話は、離れていても、ほかの人に分かってしまいます。</p> <p>内緒の話はどうやってするのでしょうか？</p> <p>手話は離れた人とも会話ができるとても便利な言葉です。</p> <p>(友だち・先生との手話)</p> <p>学生A レポート出した？</p> <p>学生B まじっ？(レポート課題あったか？)</p> <p>(学生が教員を呼ぶ)</p> <p>学生A 先日アメリカ手話授業で・・・</p> <p>教員 改めて説明します、・・・</p> <p>学生A 私は提出しましたが、彼はレポート課題があったことを知らなかったようです。</p> <p>外園くんは学校帰り、毎日ここで買い物をすませます。外園君の友だちも働いています。</p> <p>店員さんも手話が使えらると楽しく買い物ができますね。</p> <p>手話を使える店員さんがいない場合、耳が聞こえない人たちは、どのように買い物をしているのでしょうか？</p> <p>電車に乗るときは、耳が聞こえる人の場合、たいいとなりどうして座りますが、耳が聞こえない人は向かい合って座ります。</p> <p>耳が聞こえない人はなぜ、向かい合って座ってい</p>	<p>減させて、この意味を実感させるとこの学習と結びつく。</p> <p>・人から見られにくいところに移動して話す。</p> <p>・店主・店員が聞こえない人の喫茶店や飲食店もある。</p> <p>・聴覚に障害があっても様々な職業（アルバイト）に就くことができる。</p> <p>運転手、会社員、医師など</p> <p>・スキューバダイビングを</p>
	<p>耳が聞こえない人はなぜ、向かい合って座ってい</p>	<p>・スキューバダイビングを</p>

	<p>るのでしょうか？</p> <p>また、窓を通して会話することもできます。手話ならではのメリットですね。</p> <p>（電車の中での手話） 学生A お前、いつも寝坊ばかりだね。 学生B</p> <p>（電車の窓越しの手話） 学生A 終わったら、午後 12 時半に来て 学生B . . . 会う必要があるんで . . .</p> <p>テレビ番組やドラマ、映画などは、字幕のついたものを楽しみます。</p> <p>またお店を予約する場合など、今までは連絡をする手段が電話しかなく不便でしたが、最近では電話内容を通訳してくれるサービスも普及しているため、便利になってきています。</p> <p>外園君の語り約 1 分半（手話と字幕）</p>	<p>する場合手話を使えると水中で会話ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組や邦画、CM などには字幕がつくものがみられるようになった。 ・テレビ電話を使って、手話の分かる担当者が、代わりに相手に電話をしてくれるサービスを電話リレーサービスという。今はメールや SNS もあるが、緊急の時（病気で救急車を呼ぶ、お財布を落とした等）や飲食店の当日の予約などにはとても便利。 <p>アメリカ等ではこの制度が充実しているが日本ではまだ制度化されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 分半の手話表現を見
---	---	--

	<p>(画面中の字幕参照)</p> <p>外園くんの1日を追ってみてどうでしたか。 全ての人が住みよい社会にするために皆さんも一緒に考えてみましょう。</p>	<p>せて、感想を話し合わせる。(おそらく、手話は分からないという意見) 「救急車」という単語が出てくるけど、どれか探してみよう?等と問いかけると集中できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話表現を見て思ったことを自由に話し合わせてみる。
--	--	---

3 資料

(1) 聴覚障害とは

聴覚障害とは、なんらかの原因で聴覚伝導経路（外耳～内耳、聴神経から脳まで）のいずれかに損傷があることで、音声を伝達することに制限を受ける状況のことをいいます。先天性あるいは生後まもなく聴覚障害があった場合、音声言語（日本語）の獲得に困難さが生じます。内耳より中枢（聴神経）に至る部位に損傷がある難聴を「感音性難聴」といい、重度の聴覚障害であることが多いです。音がひずんで聞こえるため、補聴器等を装用し、音を増幅させたとしても、言葉や音声の聞き分けができるようになるわけではありません。また、聴力、失聴時期、生育環境によって聞こえ方、コミュニケーション方法も様々であることに注意が必要です。

(2) 手話とは

手話は独自の言語体系、文法を持ち、ろう者が手指の動き、表情を使って意思疎通や思考の手段として用いる視覚的な言語です。日本語や英語等があるように、手話も国によって異なります。

また、国によって文化も違うように、ろう者集団が独自に持つ「ろう文化」があります。ろう文化はろう者の視覚を活用した社会、生活様式を背景に手話ポエム、手話狂言などの文学や演劇等の芸術の分野で展開しています。

補足※

「聴覚障害のことを「ろう」と言うこともあります。聴覚障害のある人たちが所属する団体には「全日本ろうあ連盟」「A県ろうあ者協会」などという名称が使われています。また、特別支援学校(聴覚障害)の中には「ろう(聾)学校」と呼ばれているところもあります。総合的な学習の時間等の障害者理解教育の時間に、居住する都道府県の特別支援

学校の校名を調べて見るという学習も行ってみてください。」

(3) 情報保障（手話通訳、文字による通訳）

情報保障とは、人間の「情報を得る権利」を保障することであり、身体的ハンディキャップにより情報の取得・発信に困難さがある場合の代替手段そのものを指す場合もあります。聴覚障害者が聞こえる人の話などを聞くにあたって、音声情報（音声言語）を手話や文字などの視覚情報（視覚言語）に変換することを、手話通訳や文字通訳と呼びます。文字通訳の手段として、要約筆記、ノートテイク、音声認識等があります。

(4) 補聴器、人工内耳とは

補聴器とは、イヤホンのように耳に装着し聴覚障害者の聞き取りを補助する補装具であり、人工内耳は手術によって内耳の蝸牛に電極を埋め込み、音波を電極化することを補助するものです。近年の技術のめざましい進歩によりこれらの補聴機能は格段に上がりましたが、しかしながら、これらを装着したとしても、音の歪みを完全に取り除くことは難しいため、聞こえる人と同じような聞こえになるわけではないことに留意します。



↑補聴器（耳掛け式）



↑人工内耳

(5) 目覚まし時計 (フラッシュベル、振動アラーム) など

日常生活において、音により状況の変化などを伝えるもの (来客のインターホン・目覚まし時計など) を、音ではなく光や振動で伝えるものです。



↑フラッシュベル (Bellman&Synfon 社製)

(6) 聴覚障害特別支援学校、難聴特別支援学級、通級指導教室

①聴覚障害特別支援学校

2006年(平成18年)までは、聾学校という名称であったが、学校教育法の一部改正により、盲・聾・養護学校が特別支援学校に一本化され、制度上は特別支援学校となりました。現在聴覚に障害がある子どもが通っている聴覚障害部門を有する特別支援学校は120校(2017年現在)あり、そこで約8400人の幼児児童生徒が学んでいます。その多くは、2006年まで聾学校として教育を行っていた学校です。

②難聴特別支援学級

小・中学校に設置された、聴覚に障害がある児童生徒が通う特別支援学級は、2016年時点、小学校に741学級、中学校に316学級設置され、約1600人の児童生徒がそこで学んでいます。

③通級による指導(聴覚障害)

聴覚障害の程度が比較的軽度で、通常の学級に在籍する児童生徒がほとんどの時間を通常の学級において過ごし、一部の時間のみ「聞こえの教室・ことばの教室」等で指導を受ける形態を「通級による指導」といいます。聴覚障害のある児童生徒の場合には、言語指導、発音の指導、聴覚活用(補聴器の管理)等の自立活動の指導を受けています。2016年時点、この指導を受けている児童生徒は約2100人です。

(7) 筑波技術大学

筑波技術大学は聴覚あるいは視覚に障害のある学生を対象とする国内唯一の4年制国立

大学です。<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>

聴覚障害学生が情報科学、システム工学、デザインを学ぶ産業技術学部では、専任教員の多くが手話を使って授業を展開しています。手話以外にも、多めに配置されるホワイトボード、字幕入りの動画制作、プロジェクター数台による画面表示など、授業で内容を的確に伝えるための視覚的な工夫がされています。手話を使わない非常勤講師による授業では、リアルタイムのパソコン筆記による支援が用意されます。そして、学生は一人ひとりのニーズやコミュニケーション特性にあわせて、発音、手話、聴覚管理などの指導を受ける体制が整っています。

産業技術学部の卒業生は多くが民間企業に就職し、事務、情報処理、設計、デザインなど様々な仕事で活躍しています。教職課程の設置により、教員を目指す学生も増加しており、また同大学の大学院に進学して、産業技術のほか情報アクセシビリティの研究に携わる例もあります。

筑波技術大学だけでなく、全国の大学にも多くの聴覚障害学生が学んでいます。大学間で支援技術と体制の確立や情報発信の活性化を図るための日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) が、同大学の障害者高等教育研究支援センターを事務局として運営されています。

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/>

(8) 電話リレーサービス

チャット等を用いて聴覚障害者の代わりに電話をかける、電話代理サービスのことを「電話リレーサービス」といいます。聴覚障害者は専用オペレーターとチャットでやりとりをし、専用オペレーターから相手先に電話をかけ、その音声会話内容をチャットで聴覚障害者に伝えます。その他に、聴覚障害者と専用オペレーター（手話通訳者）とがテレビ電話を通して手話でやりとりを行うタイプのものもあります。

(9) 手話言語条例

「手話は言語である」ことを規定し、広く市民に広めることを目的とした理念型の条例です。2013年に鳥取県で全国初となる鳥取県手話言語条例が制定されて以降、100を超える地方自治体で制定されています。地域での手話の理解・啓発の推進のみならず、学校教育において手話の学習を行うことについて触れている条例も見られます。(2017年10月現在)。